



青島の風

青島日本人学校だより
平成30年2月1日
校長 金森 孝子

季節は春へ

明日から青島日本人学校は春節の休みに入りますが、日本の暦ではもうすぐ立春。最終バスを見送るときにはすでに薄暗くなっていた12月から比べると、太陽が出ている時間が長くなったことを実感する毎日です。中庭の噴水池の氷は顕在ですが、季節は確実に春に向かっていきます。平成30年度もあと一ヶ月。1年間の学習や生活のまとめを児童生徒と共に行っているところです。

1月は、日本の伝統文化や行事、スポーツに触れる機会がたくさんありました。「書き初め会」「百人一首大会」少し早い節分の取組として「豆まき集会」、中学部では体育の学習として「柔道」もありました。(青島柔道協会の李江先生にご指導いただきました。)日本人学校として意図的に実施している日本ゆかりの文化や行事に親しめば親しむほど、いずれも古(いにしえ)の中国と深い関わりがあり、日本の隣国である中国抜きに文化を語ることはできないことに気付かされます。児童生徒には、今、中国で生活していることに誇りを持ち、自分を成長させるチャンスとしてこの地に学び、多様性を理解しながら深く物事とらえられるようになってほしいと思います。

今年度、理事会、保護者の皆様のご理解、ご協力をいただきながら、学校運営面では、新たに次のことに取り組んできました。

- ◆青島日本人学校のゆるキャラ「ぱんたお」の活用
- ◆個別懇談の年3回実施
- ◆各種検定(英語、中国語、漢字)の年一回の補助
- ◆中国語学習での小学部3年~6年、初級・中級クラスに分かれての指導
- ◆中学部全員での修学旅行
- ◆学校図書館における図書資料の電算化
- ◆Wi-Fi環境の整備とタブレットの購入と活用

児童生徒が「ち」「ん」「た」「お」の力を伸ばし、グローバル人材として成長することを強く願いながら、教職員一丸となって積極的に進めていくことができました。現在、今年度の教育活動全体を振り返り、成果と課題を整理し、「中期目標」を見直しています。その内容を皆さまと共有しつつ、次年度も児童生徒が「学校が楽しい」「青島日本人学校でよかった」と思えるような学校づくりを進めてまいります。

インフルエンザの欠席について

先日、配布した「ほけんだより」で、インフルエンザについてお知らせしましたが、中国の病院でもインフルエンザの診断が出されるということがわかりました。もし、病院からそのような診断を受けた場合は、担任までお知らせください。連絡をいただいた場合は、診断書がなくても、「欠席」ではなく、「出席停止」とします。

百人一首大会

担当 新屋 朝美

1月10日、行儀よく正座し、真剣なまなざしで向かい合う小学1年生。二人の間には、20枚の取り札。今日は、百人一首大会です。1年生は20首、2年生は30首、3・4年生は50首、5年生以上は100首に挑戦しました。3学期始まって間もないという時期でしたが、冬休みに家で覚えてきた子、一首でも多く覚えようと百人一首の載った「今月の詩」とにらめっこする子など、それぞれが自分のできる精いっぱいに取り組みました。

小学部1年生は、先生が札を読む声をよく聞いて、しっかり札の文字を読み、初めての百人一首大会に挑んでいました。2年生は、日ごろの練習の成果を存分に発揮し、熱い戦いが繰り広げられました。3・4年生は、混合グループで実施し、4年生の活躍が光りました。5・6年生も、混合グループでの実施でしたが、さすが高学年とあって上の句ですぐに札をとる姿がたくさん見られました。中学部は、2グループに分かれて実施しました。沈黙の中、上の句が読み上げられると、静かに手が伸びて、札がとられていきました。今回、札がたくさん取れた人も、取れなかった人も、来年さらに上を目指してぜひ頑張ってください。

このような日本の伝統行事や習慣に、これからも親しんでいきましょう。



心も体も温まる PTA 冬行事 ありがとうございました



担当 大林 恭子

1月16日(水)、お椀を携え、足早にともだちランチ班の教室へ向かう子どもたち。冬行事第1部は、恒例の「給食体験」です。待ちきれないといった様子で「いただきます」をした後は、ほくほくの野菜と豚肉の甘みを存分に味わいました。「先生が作るのよ



り、ずっとおいしい。」私のつぶやきに、さまざまな反応が返ってきました。年に一度の特別な給食の意味をそれぞれに受けとめている子どもたちを微笑ましく、また、さすがだなと誇らしく思いました。

第2部は「二胡」と「合気道」の中日文化鑑賞会です。軽快なリズムで始まった「♪世界に一つだけの花」。二胡の音色が響き渡ると、引き込まれるように、手拍子の音がぐっと小さくなりました。「合気道」では、清められたような雰囲気の中で繰り広げられる美しい動きに、くぎ付けになりました。クイズや体験を通して、楽しく“本物”に触れたことで、子どもたちの感性が研ぎ澄まされていく様子を目の当たりにした思いがしました。

PTA 役員の皆さま、ボランティアで参加した保護者の皆さま、貴重な体験を本当にありがとう



だいた保
ごぞいました。

教室の窓

小学部1年担任 迎 香純

今日は新入生体験入学がありました。ちょっぴりお兄さん・お姉さんとして発表やお世話をする8名の1年生。あどけなきの残る入学式から、約1年が経ったことに、驚きを感じずにはいられません。

この1年で多くのことを学びました。とくに、「当たり前前が当たり前前ができる」ようになった姿に、大きな成長を感じます。例えば、学習面においては、授業が終わると次の授業の準備をすること、授業開始5分前に着席すること、「ですます」をつけた丁寧な言葉で話すことができることといったことです。生活面においては、身支度を自分ですること、廊下を静かに歩くこと、係の仕事を責任もって行うことといったことです。言葉にすると、当たり前前のことですが、それを行動に移し、習慣づけることは日頃から意識して生活をしないと身に付かないものです。一人一人が立派な1年生になったと実感しています。

「みんななかよし えがおいっぱい スーパーにじいろ1年生」の学級目標のもと、個性豊かなメンバーが揃い、毎日元気いっぱいにお過ごししました。1年生として過ごすのも、残りわずかとなりました。胸を張って2年生になれるよう、1年生のまとめをしていきたいと思ひます。

